

トビタッタ！研究推進部（2） 金沢編 研究推進部副部長 土元 優一

11月17日(土)に金沢大附属高等学校で行われた研究大会を見てきました。この学校は「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバルリーダーの育成」を構想としてSGHに指定され、次にあげるⅠからⅢの相互に関連する3つの研究開発を目指しています。今年度から1年生は「地域課題研究」に取り組んでいる学校です。

Ⅰ 地域から世界へと発展する一貫した課題研究カリキュラムの開発

「地域課題研究」「異文化研究」「グローバル提案」「グローバル・キャリアパス」

Ⅱ 課題研究の質を高める外部資源活用方法の開発

Ⅲ 課題研究の基礎をなす概設教科の内容と方法の改善(教科のSGH化)

当日の参加者は総勢91名(内、県外から41名。兵庫県からは柏原と生野、神戸大附属)でした。

まず、各教科のSGH化の取り組みに関する公開授業を見学しました。この日は、英語(コミュニケーション英語Ⅰ)、国語(現代文)、保健体育(保健)、地歴公民(日本史)、数学(数学Ⅱ)、理科(化学)が行われました。このうち、数学を参観してきました。

内容は、EUの理数教育プロジェクト mascil のある題材を参考とした「薬の血中濃度を適切に保つには」という課題に対して、指数・対数関数を用いて考察するものです。この題材は平成29年のセンター試験試行問題にも取り上げられているもので、生徒らは、数学的根拠に基づいたリーフレットを作成し、「1回飲み忘れた人にどんなアドバイスをするか」など、現実への応用も考える内容となっていました。この現実社会の事象を数学的に考察していく内容は、私の学生時代の研究テーマであり、楽しく参観して来ました。生徒の学力は非常に高く、授業はグループ活動で、班に2台のiPad。さらには、個人の携帯の使用も許可されている学校で。扱った題材は難しいものでしたが、他の参観者も驚くほど活発に議論が進んでいき、あっという間に解決へと進んでいきました。授業終了後は、研究協議に参加しました。研究協議には、生徒3名も参加する形でした。生徒らの発言内容からは「数学大好き」という数学愛が感じ取れるものでした。

昼からは総合学習の成果発表会がありました。1年生の総合「地域課題研究のクラス代表の発表会」と、2年生の総合「模擬国際会議」というテーマのうち、本校でも扱っている「地域課題」という文言に惹かれ、1年生の方に参加しました(2年生は、「2050年の世界の餓死者をゼロにする」というテーマで、担当国の代表者となった生徒らが模擬国際会議を行うという内容)。1年生の発表は、3つ行われました。

- ① 乗り物のテーマパークで加賀南部に県外の子育て世帯を呼び込もう！
- ② 空き家で高齢者シェアハウス in 加賀
- ③ 姉妹都市にキッチンカーを走らせて、五郎島金時の魅力を世界に発信！

最後に、全体会が行われSGH指定期間の総括や、今後の計画についての話を聞きました。

今回の訪問を通して感じたのは、学校全体で総合というものに向き合っているという感じを大きく受けました。ここで得られた知見を柏原高校の探究活動にも取り入れることができるよう、よりよい「探究」のあり方を全体で模索していこうと決意し柏原に戻ってきました。



